主　な　ト　ピ　ッ　ク　ス

「えひめクールチョイス大作戦」の実施　～３つのキャンペーンを展開～

低炭素社会の実現に向け、温室効果ガス排出量が増加している家庭部門の対策として、家庭からのＣＯ２排出量の上位１～３位である、①照明・家電製品、②自動車、③給湯、の３つの分野において、地球温暖化防止に繋がる賢い選択（クールチョイス）を県民に呼び掛ける「えひめクールチョイス大作戦」を実施し、３つのキャンペーンを展開しました。

１．ＣＯ２ＣＯ２（コツコツ）がんばるキャンペーン

省エネ家電への買い替え促進を図るため、各家庭に応じた省エネ・省ＣＯ２対策を提案する「うちエコ診断」を受診した方が、家庭での省エネに挑戦し、削減したＣＯ２量に応じて省エネ家電の購入時に割引を受けることができる「ＣＯ２ＣＯ２がんばるポイント」を付与する。

２．ツーキニスト拡大キャンペーン

自転車通勤を促す環境を整備し、自転車を活用したライフスタイルへの転換を図るため、「えひめツーキニストクラブ」会員に対し、えひめツーキニスト応援隊（協力企業等）からの特典を付与するとともに、「ツーキニスト推進事業所」を募集し、その事業所の取組みを広くＨＰ等で周知する。

３．温泉でほっ！とシェアキャンペーン

温泉・銭湯を利用することにより、家庭の給湯からのＣＯ２排出量を削減するため、キャンペーン期間（29年11月～30年２月）中、温泉シェアスポットとして登録した温泉や銭湯施設等で入浴した方に特典等を付与する。

上：【「えひめクールチョイス大作戦」キックオフ発表会】

右：【「えひめクールチョイス大作戦」ポスター】

おいしい食べきり運動推進店モデル事業の実施について

日本国内では、「食べ残し」や「手つかず食品」といった、本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品、いわゆる「食品ロス」は、年間約 646 万トン（平成 27 年度農林水産省・環境省）と推計されており、国民１人１人が、毎日お茶碗１杯分のご飯を捨てている量に相当します。このうち、食品メーカーや小売店、レストランなどの事業系から約 357 万トン、家庭から約 289 万トンが廃棄物として排出され、人口比で推計すると、愛媛県では、事業系約 3.9 万トン、家庭系約 3.1 万トンの合わせて約 7 万トンとなっています。

県では、「食品ロス」を削減するため、リサイクル率の低い外食産業をターゲットとして、食べ残しを減らす取組みを実践する飲食店、宿泊施設等を「おいしい食べきり運動推進店」として登録し、県ホームページ等でみきゃんやダークみきゃんが扮した食べきり侍を活用して広く紹介し、「食べ残しゼロキャンペーン」を実施して、県民の皆さんの関心を高め、意識啓発を図りました。

推進店では、ハーフサイズや小盛りサイズ等のメニュー設定や、利用者が食べ残しをしなかった場合などの特典の提供等、各店舗に応じたサービスを実施しました。

○実施期間　　平成 29 年 8 月から 9 月末まで

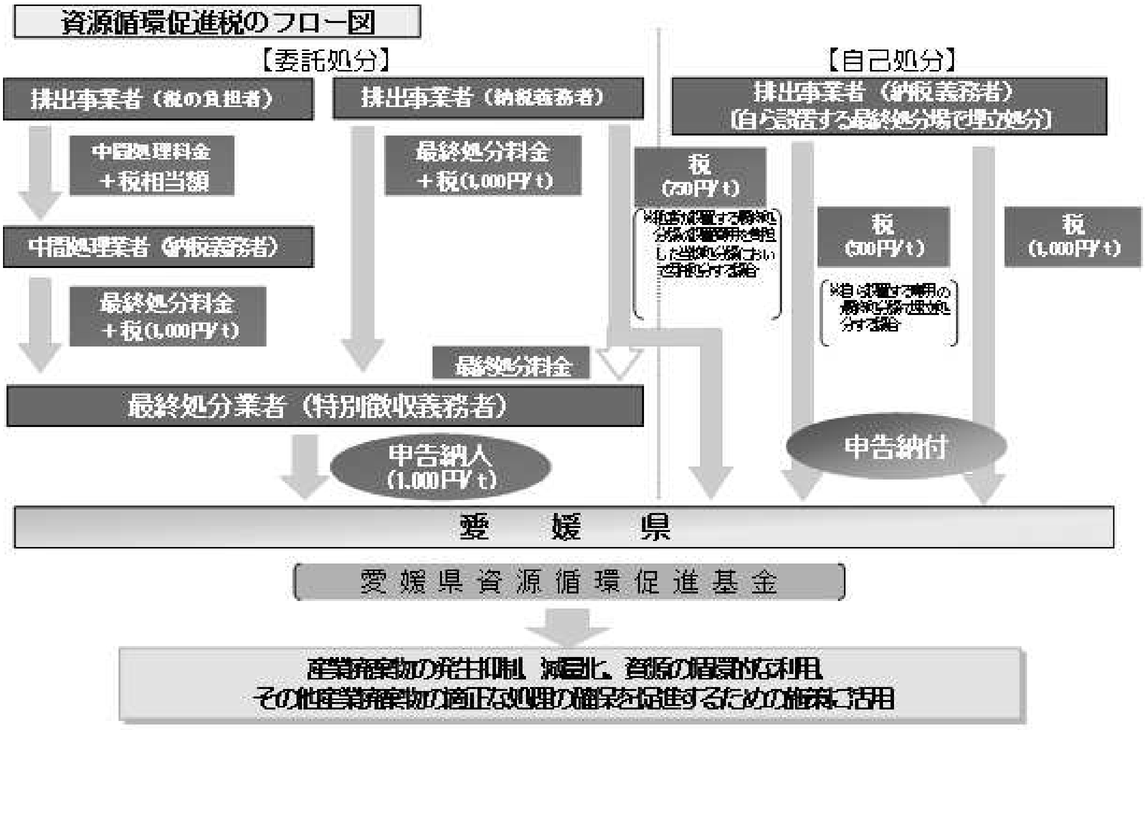
○参加店舗数　62 店舗（東予 7、中予 44、南予 11：9 市 2 町）

資源循環促進税の継続と効果について

愛媛県では、循環型社会の形成に向け、平成 19 年４月１日に、「資源循環促進税」を導入しました。同税は、産業廃棄物行政に充てる財源を確保し、産業廃棄物の排出の抑制及び減量化並びに資源の循環的な利用その他産業廃棄物の適正な処理の確保を促進するための施策を展開するとともに、副次的に「課税行為それ自体により事業者の排出抑制を誘因」することを目的としています。

平成 29 年度は、愛媛県資源循環促進税条例の一部を改正する条例（平成 25 年愛媛県条例第７号の施行（平成 25 年４月１日）から５年を迎えることとなるため、同例附則の規定に基づき、埋立処分量等の推移や税充当事業の成果のほか、排出事業者や処理業者の意見も踏まえながら、資源循環促進税の調査を行った結果、①税の導入により最終処分場の削減など３Ｒの推進効果がみられること、②循環型社会構築のため、引き続き取組を継続する必要があることなどから、現行制度を維持・継続することとしました。

○資源循環促進税のフロー図



えひめ海ごみ調査隊2017の開催について

平成29年９月９日(土)、今治市の桜井海岸において「えひめ海ごみ調査隊2017～知ろう！学ぼう！海洋ごみ～」を開催しました。

イベント当日は、小・中学生とその保護者・引率者合わせて57名が参加、好天にも恵まれ、海ごみについて楽しく学習しました。

≪講義≫

ビーチクリーンしまなみの藤原陽一郎氏により、県内の海ごみの状況についてのお話があり、愛媛の海岸に流れ着く海ごみの種類や発生源、普段の生活でごみを適正に処分することが海ごみの発生抑制につながることを学習しました。

≪海ごみ回収ゲーム≫

参加者が各チームに分かれ、回収した海ごみの量と種類に応じて点数が加算されるゲーム形式で海ごみを回収しました。

収集したごみの総量は、14.6kg、種類別では、ペットボトル、発泡スチロール、漁具が多く集まりました。

≪海ごみアート作成≫

　回収した海ごみ等を材料に、海ごみアート（みきゃんオブジェ、ダークみきゃんオブジェ。フォトフレーム）を製作しました。

　また、作成した海ごみアートについては、平成29年10月15日開催の「えひめの生物多様性まるごとフェスタ」において展示されました。

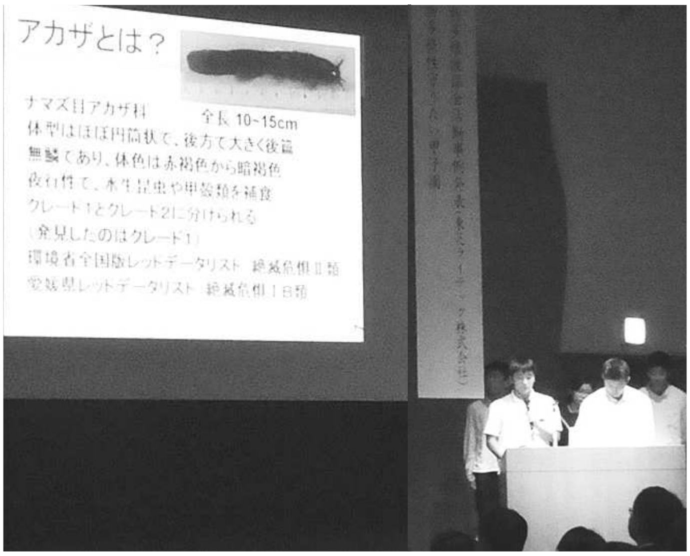
　参加者からは、海ごみ問題について関心を持って楽しく学ぶことができたとの意見を多数いただきました。

えひめの生物多様性まるごとフェスタ　～つないでいこう豊かな自然と生きものの恵み～

広く県民に生物多様性の重要性や、現在の危機的な状況を認識してもらい、これまで以上に生物多様性保全意識の向上を図るため、平成 29 年 10 月 15 日に、いよてつ髙島屋スカイドーム、ローズホールにおいて、生物多様性保全の普及啓発イベントを開催しました。

国連生物多様性の 10 年日本委員会で生物多様性リーダーを務めるイルカ氏による基調講演「まあるい地球の仲間たち」、東芝ライテック（株）今治事業所の特定希少野生動植物を保全するための活動紹介、県内高校５校による発表「えひめの生物多様性守りたい甲子園」、生物多様性の恵みである県内農林水産物・加工品等の販売、体験、展示など、子どもから大人までが楽しく愛媛の生物多様性についての知識を深める機会を創出し、県民総ぐるみで生物多様性保全に取り組む意識の向上を図りました。

えひめの生物多様性まるごとフェスタ



えひめの生物多様性守りたい甲子園で発表する高校生

えひめの生物多様性守りたい甲子園で発表した高校生